



①



②



③



④



⑤

地域の絆づくりに「めんどうみサービス」や移動販売

現在、日本は超高齢社会を迎え、2050年には国民の3人に一人が65歳以上になると予測されている。それに伴い、交通事故、孤独死、詐欺事件など、年々様々なことが起きており、これらのことは地域のつながりが希薄になったことが一因として挙げられる。これを解消しなければ、こうした事故や事件はますます増加していくと思われる。

今回は、瀬田商工会にお邪魔して「絆づくりプロジェクト」という取り組みについてお話を伺った。同プロジェクトでは、瀬田商工会、商工会会員、自治連合会、社会福祉協議会が連携して地域密着で行う①「めんどうみサービス」を提供している。地域の皆さんが、生活をする中で困ったことがあって、どこに頼めばよいかわからないときに、サンサンサンキュー（☎545-3339）へ電話をすればよいのである。現在、その電話の受付は、月～金の9:00～17:00まで商工会が行っている。平成24年のサービス開始以来、これまで延べ347件の利用があり、利用者は、60代と70代が約半数を占めている。利用内容は、家電修理、水回りのトラブル、窓・ドアに関すること、剪定・草刈りなど、多岐に及んでいる。

絆づくりプロジェクトのリーダーで、事業計画の作成や関係諸機関の調整役を担っている浦松武司さん(64)は、技術者として勤務していた会社を49歳で脱サラされ、今は「自転車工房ふいと」を経営している。住む人たちがそれぞれに自立すべきであるが、

困ったことがあれば、できる人が、あるいはできる場所で解決をして、皆が安心して暮らせる社会を作っていくのだというお話だった。理想論を語っているのではない、相談をうけ、それを引き受けた者の意識はボランティアであっても商売として適正な利益をいただく、それを崩してしまうと、発展、継続が危うくなるのだ、とも語られた。現在、このサービス加盟店は28店だが、加盟していない店の力を借りることも多々あるとのことである。

この他、絆づくりプロジェクトでは、④勢多市(せたのいち)と移動販売という取り組みが行われている。勢多市は、建部大社で毎月第3日曜日に十数店が出店して行われている。移動販売は、同プロジェクト副リーダーの⑤森田幸子さんが毎週水曜日に、瀬田商工会を含む6か所をまわっている。幸子さんが氷川きよしの演歌をかけながら商工会の駐車場に入ってくると、②50歳前後の女性が3人ほど、65歳を過ぎたと思われる方が2名、若いママさん風の方が1人とどこからともなく集まってきた。③車の片方には野菜、果物、菓子、惣菜が、もう片方には魚、肉、乳製品などが積まれている。種類は少ないかもしれないが、今晚のおかずを作ろうと思うとき、ほとんどここで揃うのではないかと思う。いくつか品定めをしながら、幸子さんとおしゃべりが始まる。ほのほのとした話題だ。利用者の皆さんは、自分の目で選んで買い物をする楽しみはもちろんのこと、幸子さんや他のお客さんとの会話を楽し

んでいるように見えた。

今回のインタビューをセッティングしていただいた瀬田商工会の川瀬成行さんがぼつとつぶやいた。「いつも来るお客さんが、今日はまだ来てませんね。」こういう気遣いが、地域の絆になっていくのだろうと感じた。

取材後記 誠心誠意

私たち学生は、これから就職して、結婚をして家庭をもったとき、育児につまずいたり、トラブルに巻き込まれたり、困りごとは必ずついて回ると思う。今や、お金さえ出せば何でもそろう社会になって、生活の便利さを探するのはそれほど難しいことではない。しかし、人が本当に求めるものってなんだろうか。人との触れ合いを求め、そこに、安全・安心があることを、誰もが願っているのではないだろうか。誠心誠意、「めんどうみサービス」に取り組んでいらっしゃるお二人の姿をみて、絆を結ぶ原点はここにあると感じた。



滋賀短期大学
ビジネスコミュニケーション学科
2回生 松田千明
1回生 清水たから